

訪問日 2023年11月20日(月) 午前11時～午後4時半

(当会参加者)

櫻井巖会長、渋井信和副会長、飯田哲郎副会長、平野正利監事、菊地輝雄事務局長、片桐章太会員、新井英明協同組合TDR理事

(檜原村)

吉本昂二 村長、久保嶋光浩 総務課長

(コーディネーター)

吉澤 実 元東京都商工会連合会事務局長

(檜原村概要) 2023.11.1日現在

面積 105.41km² 内森林が93%。村の中央を標高900mから1,000mの尾根が東西に走っており両側に南北秋川が流れ、この川沿いに集落が点在している。

人口は1,996人、主要な産業は、観光、農業、林業である。

かつて林業の村として栄えた檜原村の人口は、昭和22(1947)年の6,642人をピークに減少の一途をたどり、現在2023年11月に1,996人になった。

森の街檜原村には、東京都で唯一の「日本の滝百選」の払沢の滝や觀光名所「神戸岩」などのほか数十の滝があり、また眺望に勝れた山々がある。



そのほか「数馬の湯」や山岳公園の「檜原都民の森」などの地ならではの施設がある。最近では、「檜原森のおもちゃ美術館」や軽食の取れる焼酎工場「ひのはらファクトリー」なども出来ている。

(今回の見学場所)

- (1) 檜原森のおもちゃ美術館
- (2) ひのはらファクトリー
- (3) 神戸(かのと)岩
- (4) 檜原村役場懇談



(訪問・懇談の概要)

吉本村長のご挨拶

一言ご挨拶させていただきます。

先日は、立川中央病院でのセミナーに参加させていただきました。ありがとうございました。皆さん、多様な分野の方たちの集まりだなというのを実感させていただきました。

今日は、飯田社長様と檜原村に住んでいる吉澤さんに音頭を取っていただき予定を組ませていただきました。

最初に、神戸岩(かのといわ)という、昔から神が宿るというような形で、何でこんな大きな岩が中をくり貫けたのだろうというように浸食によって岩がすごい借景を見せております。縦横100Mぐらいの大きな岩盤がそこを切り抜いているという、檜原村でも一番の観光スポットとなっています。

次に、「ひのはらファクトリー」という焼酎工場、や「おもちゃ美術館」があります。その美術館は檜原村が音頭をとつて、子どもさんが来て遊べるようなどころを作つてあります。

檜原村は93%が林野でございます。その林野がうまく機能すれば、檜原村はすぐ潤うのですけれども、一方、木の需要が本当に少なくなっています。それが利用されるまでは私の思いとしては、環境をいかにして保持して、檜原村が東京都でこの森林を残していくたらということで、

都知事にもいろんな形で支援していただきたいということでお願いをしています。問題はとにかく道路は幹線が一本しかありません。また、道路維持や一本の橋をかけるのも、もう本当にすぐ長いスパンを要してしますので、私どもが生きている間にその辺のことも解決するのかなど、そんな気がしています。

かつて都知事が言つていただいて、じゃあやろうということで用地買収や橋をかけていこうといふことでしたが、途中、財政がよくないということになりました。最近の状況だと財政状況もそれほど悪くないといふことで、それを再開してもらいたいなと思っています。なんとか知事に、その辺もお伝えして実現に向けていきたいなと考えております。今日は本当に遠いところまで来ていただきましてありがとうございます。ゆっくり檜原を見ていただいてファンになっていただいて、これからもいろんな形でおいでいただいたら助かりますので、よろしくお願ひします。



(1) 檜原森のおもちゃ美術館（館長の説明）

森の豊かな恵みを生かした「体験型美術館」という位置づけで建設されました。年間24万人の観光人口のうち4万人が来ているという、観光の中心となる施設となっており、成功事例だという風に感じています。

ここで仕事されている方は、村の方が半分あとは、パートさんとかで、お隣のあきる野市からいらっしゃっている。まずは村内雇用ということも言われてきました。

また、ここにお客さんが来ることによって、地域の方たちも本当にこんなに来るのなんていう話だったので、周りでも多くの方が施設に来られるのを見て、少しずつ飲食店を始めたりと、地域にも貢献をしていくのがなとうぶうに思つております。

街づくりをどうやって応援できるか、地域がさらに少しでもいい発展ができるように力を入れなければと思つていてますよろしくお願ひします。

2 ひのはらファクトリー

ひのはらの焼酎工場。じやがいも焼酎や世界初「木の酒」を製造、販売している。館内では、軽食も楽しめる。じやがいも焼酎をベースに、世界初の木の酒を造っている。小物類も販売しており面白い。



(村役場での村長の説明)

1 村の交通事情

村内唯一の交通がバスですが、通学とか通勤のタクシー、バス利用がどんどん減っている。昔は定期バスもあったがそれでやつていけないということでデマンドでやっています。昔は学校、高校に通うのに、みんなうちからバスでいっぱい運んでいたが、今武藏五日市駅(あきる野市)に行つてもその時間帯でも全然乗っていません。

どうしてかなど各家庭の車で送つて行つて、送迎してもらつています。

2 人口と定住化対策について

檜原村は第2次人口ビジョン総合戦略では、20年後には人口が800人になるというそんな予想が出ています。檜原村では、年間で出生が10人以下といって生まれないんですね。それでお亡くなりになる人が年間50人いますので、その差の40人が黙つていれば減ってしまうということで、私はすごい危機感を覚えていています。これを何とか打開していくというのが私の課題だと思っています。

現在、57億円くらいの基金を積み増しています。それを利用して先行投資で土地を購入して何に使うかといういろいろなことで使えると思います。まず住宅を作つて子育ての優しい村にしようということです、そ

して企業誘致に使います。いろんなことで使えるので有効に基金を使わせてもらおうと考えています。

そして空き家になつてゐる家が非常に多いのですが、相続がまだということでそれを今は貸してもらえません。来年からは相続は3年以内にやるというのがありますけれども、今現在相続ができるいない2代3代前から相続が終わつていないう家が結構ありますので、その辺もできたらアドバイザリー事業といふことで、相続をお手伝いするような形で、それではそういうことをしてできたら貸していただきて、移住者とかそういう人たちに貸して人口を増やす、そんな目論です。

人口の推移を見てみればわかるのですけれども、昭和22年は人口が6,642人ということです。今の3倍いました。それで今年11月1日現在は1,996人ということです。

自治会も限界集落を超えておりままでの維持が大変です。とにかく、53・3%が高齢者比率(65歳以上)なので非常に危機感を覚えてい

ますけれども、これどう解決していくらしいかというのは非常に難しいので、先ほど言つたようなことを、一生懸命頑張つて自立しようとやっております。

4 予算と積立金の活用

一番の問題なのが予算関係です。

令和4年的一般会計は、予算総額で一般会計が約40億、支出は38億くらい。収入の内訳は地方税、村の税金は約2億円、全体の比率化すると合計1%に当たります。地方交付税は14億8千万円ほどで37%ほどで、都支出金は15億8千万円で39・5%、これについては都民の森の指定管理の管理費も含めての話ですが、大体、地方交付税と都等支出金で同じくらいの比率を占めています。あわせて76・5%と

3 森林と林業

檜原の面積のうち、93%の林野のうちの植林率が66%、針葉樹が

いうことで、これがなかつたら檜原は全然やつていけない状態で、その中で基金を積みまっています。

令和5年度の基準財政需要額につきましては、既に確定しており15億1,800万円です。これは基準財政需要額プラス公債費プラス包括算定経費、そして臨時財政対策費を引いたものです。

基準財政収入額は2億6,000万円ということで、これは市町村税と固定資産税と15項目を足したものです。

標準財政規模については15億7900万円ということで村税等の収入割合になります。

財政力指数については0.164ということで、これについては村税等の収入の割合になります。実質収支比率については、令和4年度で、9.1といふことです。そして、経常収支比率については73.2ということで、これは80%を下回つていれば健全だということで檜原村が73.2といふことで健全ということがわかります。

積立金は基金になりますけれども54億4,000万円ということで、これについては15基金になります。最初のうちには基金についてはどんな時代が来るかわからぬので、東京都でも使うわけじゃないので、基金に回すことは特に問題ないでしようということで、一応はいただいていましたが、ここまで増えると普段の事業に使わないでただ基金に回しているのかどうとも言われています。それで、今後はこれを利用し使わないと

ちょっと問題があるかなということで。土地だとかそういうふうなものを取得して活性化につなげるようと考えています。

地方債の現在高については7億7800万円、地方債というのは借入です。そして地方交付税についてはもう決まってますけれども、12億5,700万円ほどです。そしてそのうちの普通交付税が12億5,700万円でございます。ラスペイレス指数は99.9%でございます。

村ではいろんな形のことをやっておりましたので、できたら皆さんにいろんな形で今後とも「尽力いただいて、檜原村が成り立つような形でご指導いただければなと思っております。私の方からの説明については以上です。

1 道路の整備について

I 山は道路が狭くて車が行き来できませんよね。あれ、もうちょっと行き来できれば観光客が増えると思いますが如何ですか。

K 道路整備は難しく、このくらいのお金じゃとてもじゃないけどできないと思う。

◎ この幹線は都道、今日走ってきた集落を行く道は村道、途中から林道、林道は東京都の管轄するところもあります。

S 村道のところで今言つたようなことをやるっていうのがいいことだよね。ただ単に通過するだけじゃ意味がない。そこに行つて楽しむとか何かするとか、そういうものを作る必要がある。

I 結構楽しいところがいっぱいありますよね。

村長の御発言は ◎ で表記

2 定住化促進について

K 一番の課題がやはり人口減少についてどう打開するかが一番の大好きなテーマとおっしゃられたんで、展望をもう少し村長のお話をお願いします。

◎ 先ほどちよとお話をしたんですけど、とにかく人口減少が本当に20年後には800人になつてしまつという。そういう統計もありますので、それを乗り越えていかなければいけないということで、土地をとにかく基金で購入して、それでその対策に住宅政策と

か、そういうふうなものに充てて、それから移住者についても空き家

を利用して移住を増やし、新しく住宅を作つてそこに住むのだと、そういうふうな形のものを考えています。

檜原村の自然を生かした教育といふことで、教育関係にも一応担当いただいて、こういう教育をしているぞ、ということでPRをして人口を増やしたいなどそんな考え方で進めていきたいなと思います。

また、保育園を新しく作つてあり、施設自体は公設民営で管理していただいている。村の中だけではなくて、他のところからも来ている人が何人かいますが、需要と供給のバランスは大丈夫です。

K 外から仕事、例えば木の美術館、そこも半分ぐらいはあきる野市などの隣の地域から来ている。そういう人が子供を連れてくる可能性もある。

◎ 檜原村で事業を始めるにあたつて村が応援するから、必ず村内で雇用してもらう。しかし、募集してもなかなか檜原自体で人が集まらないのが現状です。

K 仕事があれば、そこに若者が来て住む家があつて、保育環境もあつて、教育環境もちゃんとしていれば移住してくれるのではないかっていうのはありますよね。

◎ それはあります。

3 企業誘致について

◎ 募集し村が結構お手伝いして、企業誘致の補助金とかいろんなことをやつているが、なかなか集まらない。やはり田舎なんで人を集めるのが非常に難しい。村では企業誘致にも手厚い補助金とかをやるような形は考えています。

I 仕事をと交通つていうのは非常に大きなネックつていうのを私も感じてるんですけど、結局通えない。

◎ 道路の整備をすれば、働く場所はあきる野とか八王子だと、通り圈内にはいっぱい工場がありますから、逆にそういうところにみんな出ていつてしまつた。雪が降つたら夜から除雪してますし、それで道が止まるような場合はほとんどありませんので、あとは台風だと、大雨による降雨量が今140mmでストップしてしまいますけども、それにはもうちょっと250mmくらいでも耐えられるような道路の整備が進んでいます。

4 テレワークについて

I 檜原村では、例えば仕事はここになくとも都心にあつて、テレワークで仕事できるというような環境というのはどうでしょうか。

◎ サテライトオフィスという形でテレワークで仕事できるような施設を作つて運用しています。パソコンを使えるような結構広い場所がオ

ープンスペースであつて、なおかつ10人ぐらいは泊まれるようなベッドを用意している。5Gは入っていませんが、ワイハイは使えるサテライトオフィスです。ここから車で数分のところです。



（写真：ホームページから）

東京唯一の山村「檜原村」に、テレワーカ&ワーケーション可能な新たな関係人口拠点「Village Hinohara」が2022年1月にオープン

ストが全然違うということです。大学や企業にも、木をどう切り出してどう安価に搬出できるかとか。この急峻な山の中でコストを抑えられる実用的な研究をしていただけないか。そうしないと、この東京の山は死んでしまうのではないかと思っています。

◎ まさにその通りです。というのは、知事の話をすると、要は多摩産材の利用ということです。力を入れていただいているのですけど、

ある機械で4歩回つて掘込んでピッタリ切つてダッシュとやって排出できるんですけど、この辺だと、その後の排出がすごく大変です。檜原村でも、そのために林道を1メートル作るのに補助金を出していくといふことで、そういう形ではやっていてもこれだけの山を今まで全然切られていないので。

H 林業がうまく産業として基軸になればいいかなと思いますし、流通の関係はだいぶ整備するところも必要ですが、これから木造関係の建物というのは建築基準法が変わって今までと違つて、6階7階のビルでも木造ができるようになりますから、少し林業を稼げる柱にしてもいいのかなと思います。

K 木材需要はこれから出できます。問題は今、外材と比較すると、いうことで話は来てます。ただ人材を育成するのに一人前になる

5 木材活用の拡大

H 林業がうまく産業として基軸になればいいかなと思いますし、流通の関係はだいぶ整備するところも必要ですが、これから木造関係の建物というのは建築基準法が変わって今までと違つて、6階7階のビルでも木造ができるようになりますから、少し林業を稼げる柱にしてもいいのかなと思います。

K 木材需要はこれから出できます。問題は今、外材と比較すると、

まで村で面倒を見る、ことはできない。

また、切りだしの機械を多摩の方に貸す、ということである会社が預かっている。しかし、切り出しの機械が山に入っていくのが大変。

K 毎年毎年花粉も出ていますしね。間伐もできない、下草刈りも枝打ちもできない悪循環が続いているわけですね。それをどう断ち切るかっていうのは、檜原村だけのテーマじゃないわけですね。森の改革はビジョンを持つて長期的にやらなきやダメですよね。技術開発も含めてね。まちづくりのコーディネーターも必要で、どうしたら本当にこの多摩の森を守って木を切り出す循環を作れるのかとか本気でやらないといけない。のままだとまさに先は真っ暗闇ですね。

道路も木もある循環を作れば、木が売り出せれば道路も整備できる。そこに雇用もある。どこに目をつけるかっていうのは、これはそのマネージャーが必要です。みんなでアイデアを出す。

S 私どももまた、それを研究会として勉強しなくちゃいけない。

K 当研究会ができる、ことはいろんなところに協力を求める、こととか、連続してフォーラムをやるとか。自治体を越えて、または学者であるとか、そういう人の力を借りるとかですね。この急峻な森の中で科学力を駆使していろいろ考えられないか、みんなそれ分かつて。分

6 森林環境税

◎ 森林環境税の導入によって山を手入れをしましようということで、そういうふうな形で都内でも区と市町村との連携で協定を結ん

で、

そのお金を有効に使いましょうという協定を結んであります。で、ただこの山、台帳上は1ヘクタールですよって言つても、確定してないんです。それで1ヘクタールの山の価値って言つたら、昔は1000万くらいしてたんですけど、今は100万もしてないんです。それで、今売り買いがだいたい、木が生えていて60万とか70万です。それを森林環境税で手入れをするのですけど、確定するのにその2倍くらいの200万くらいかかります。

村としても、その土地を確定して森林環境税を提供してもらう。そんな形にはなるけどやらないよりもいい。ただその場合にも花粉対策ということで樹種の変更までいかない。

東京都では、杉を切つたら花粉の少ない木を植えてくれる。20年間管理をしてくれて元の人達に戻します。そういう事業を東京都は率先して、おそらく既に20年くらい経つてると思いますけども、それをやってくれているので他の県とは全然違うような形で進んできますね。

K 当研究会ができる、ことはいろんなところに協力を求める、こととか、連続してフォーラムをやるとか。自治体を越えて、または学者であるとか、そういう人の力を借りるとかですね。この急峻な森の中で科学力を駆使していろいろ考えられないか、みんなそれ分かつて。分

かつてるけど、力がまだ結集されてないんです。それを支持してくれるのは世論だと思いますよね。多摩の森を守ろうじゃないかっていう気持ちになつてくれればいい。今花粉だつて当たり前になつちやつて、毎年病院がこれでいいんだみたいな気持ちになつてますね。木材輸入の自由化に始まり一挙に多摩の森は廃れてつたわけですからそういうところをしっかりとみんなが理解して、この木をいかに安く搬出できるか、こんな近場にあるわけですから。

Sだから、そういうことも含めて具体的なプログラムをもうちょっと整理しないと知恵を結集するみたいな感じで。

I 大事な視点が皆さんからあつたと思いますが人口が減つてゐる。かつて6,000人の人口がこれから800人ぐらゐになる。一方で素晴らしい自然がある。木を生かしたいが仕事がない。そういう要素を全部集めると、解決方法、知恵というのはいくつかあると思うのですよね。鉄道は五日市駅で止まつて、ここまで来るのに車で20,30分かかる。奥多摩町の方は奥多摩駅まである。都内とか立川に通う通勤圏内だということであれば人口は減らないんですね。通勤圏内ではないから減つてるんじゃないかと思うんですね。林業も1000人いたけども40人になつちやつた。

K ここは交通の便が悪いから、逆に言つと自然が保全されている。これ10年後に逆転するのではないかなつて思つてて、ただ10年先を

までどういうプロセスでいくのかつていうと、10年後をどう描くのかつていうのは非常に重要じやないかって思います。交通手段つてのはもうこれからどんどん変わつてくる。自動運転の時代。奥多摩町でも郵政のプロジェクト始まつてるとか。だから、もうすぐそこまで逆転の時代が近いという気がするんですよ。

◎ そこまで来ますね。ただ村で今何ができるのかつて言つたら、やはり奥多摩町さんがやつてるような荷物運搬。物流ですね。

7 在来工法の見直し

◎ あとは一つ材料を使うにしても都内なんか行くと、家がみんな合板で張り付けてあって、もう20年30年で朽ち果てる。屋根なんかもコロニーでそんな長持ちしない。在来工法の住宅なんかは檜原の売りだつてことでやつたらどうかって思つています。

京都の神社仏閣が1000年以上もつてゐるといふことで、普通の家でも在来工法でやれば必ず100年持つ。それはやっぱり同じくらいに作つた家を見ると全然違いますね。きちつとしてる。在来工法じゃない今風の家つていうのは、もう壁は塗らなきやいけない。

H ドイツとかイタリアなんかみんな2000年3000年くらいの家ばつかりですね。それがいいとは言わないので。

◎ やはりそういう形のものも検討の価値がある。

A 数年後には、高性能の機密断熱の住宅や、太陽光とか、そういう住宅が義務化になっちゃう。そうすると助成金も出るとかね。

K そろそろあと10分程度ですから提案させていただきたい。

いろんな意見や村長さんからいろいろお話をあって、いい施設を見させていただきました。希望もあるし、そこで僕らができることはやつていただきたい。檜原の問題は東京の問題であり、日本の世界の問題です。

当研究会としては継続的に一緒にお話をさせていただくのと、何かディスカッションをするような、来年一つの具体的なイベントを企画したい。その時には、村長さんにもぜひぜひお力添えをいただいて、スピーカーになつていただくとかですね。雇用の問題とか産業の問題とかいろいろと含めてちょっといろいろ研究していきたいなと思っておりますのでどうぞよろしくお願いします。本日は長時間ありがとうございました。